
クラブトン、ジミ・ヘンに会う

浅川太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クラブトン、ジミ・ヘンに会う

【Nコード】

N0642Z

【作者名】

浅川太郎

【あらすじ】

ブリティッシュ・ロックとブルースについて、よしなしごとを：

(前書き)

エッセイ感覚で、どうぞ！

クラプトンの著書によると、1996年、クラプトンは、はじめてジミィに会った、という。

この年の、ブリティッシュ・ブルース・ロック・シーンは、どのようなものであったろうか。

すべてがビートルズ中心という訳でもなかったであろうが、少し前に『FOR SALE』というアルバムを出し、前年は『HELP!』に明け暮れたはずである。

また翌年には、あの『サージェント・ペッパーズ』であるから、ちょうど端境期はぎかいきではなかったかと思う。

ビートルズは、何もジョン・レノンが中心という訳でもなかったのであろうが、彼の容貌が極端に変化していつのが、この時期である。それまでポップスターっぽかったのが、哲学者の風貌と言われるようになった。実情はLSDなどの過剰摂取の結果であったという。

そんな端境期に、クラプトンはジミィに会うのである。

それだけでも僕は興奮できる。神の配剤、とか……

僕は学生時代、ブリティッシュ・ロック一辺倒と言っているほど好み限定されていた。

例外は、ウィンター・ファミリーくらいだったか。

ストーンズは言うまでもないこと、ボウイー、イエス、ゼッペリン、フロイド、プロコル、パープル、ウッド・マック……キリがない。広い意味では、ロリー・ギャラガーをいれてもいい。

であるから、案外に長い間、米国ブルースを受け付けなかった。若い音楽ファンに僕は言うのだが、ストーンズ、ゼッペリンが好きであれば、本場のブルースを好きになるのは時間の問題だ、と。

ブリティッシュに傾倒したあまり、クラプトンとジミィに興味はあったものの、系統だてて聴くことはしなかった。

この2、3年、気がついたことがある。

クラプトンはジミィの曲を演ってるし、ジミィもクラプトンの曲を演っている。

また、クラプトンとジョニー・ウィンターが同じ曲を演ってることも発見した。

ああ、あまりにも興奮し過ぎて書いたため、オチを忘れてしまった。

このあたりの論説文を書けば、一冊の本になりそうな気がする。

(後書き)

ブルースも奥が深く、完全に溺れています……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0642z/>

クラブトン、ジミ・ヘンに会う

2011年12月2日15時53分発行